

様式1 平成28年度 山梨県立富士見支援学校旭分校学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針	
-----------	--

山梨県立富士見支援学校旭分校 校長 石原 一彦

本年度の重点目標	1 児童生徒の実態に即した支援や学習指導を行い、一人一人の確かな学力を育む。
	2 健やかな心身の涵養とよりよい人間関係の形成を図り、社会に参加する態度を育成する。
	3 病弱児教育に関する専門性の充実を図り、信頼される学校づくりを行う。

達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	B 概ね達成できた。(6割以上)
	C 不十分である。(4割以上)
	D 達成できなかった。(4割以下)

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自己評価						
番号	評価項目	本年度の重点目標 具体的方策	方策の評価指標	年度末評価(3月15日現在)		
				自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
1	児童生徒の実態に即した支援や学習指導を行い、一人一人の確かな学力を育む。	合理的配慮を踏まえた個別的教育支援計画を作成し、個別の指導計画に基づいた学習の状況や結果を適切に評価し、指導の改善を図る。	児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証(満足度80%)	各学期の始めに各教科・自立活動と指導計画を職員間で共通理解して指導に当たることができた。学期の途中の転入の場合は転入1ヶ月を目処に指導計画を作成して共通理解を図った。評価についても同様に会議をもち適切な評価に努めた。	B	短期間でも計画をたてることにより、指導の道筋を考えることができる。評価に至らなくとも、前籍校に学習内容等を伝えることで継続できる内容があるので、学習内容を伝える分校独自の様式を作ることについて検討をする。
		ICT教材の活用や体験的活動など、指導法を工夫することにより、わかる喜びを実感できる授業を行い、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。	児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証(満足度80%)	各教科でパソコン教材、インターネット、パワーポイント、デジタル教科書等を使ってきた。学習指導においても基礎的・基本的な知識・技能の定着やわかる授業をめざして取り組んできたが、概ね目標は達せられた。		タブレットがなく、個人持ちのものを使用していたので、学校備品としてのタブレットが必要である。担任を中心にチーム全体で日々の児童生徒の実態に即した丁寧なかかわりを行い、それぞれの児童生徒の成長につなげた。
2	健やかな心身の涵養とよりよい人間関係の形成を図り、社会に参加する態度を育成する。	教育課程に児童生徒の病態を考慮した系統的・体系的なキャリア教育を位置づけ、その充実を図る。	児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証(満足度80%)	自立活動において、個々の実態に即した指導をきめ細かく行うことができた。それ以外でも学年ごとの進路集会や中学生全員での進路学習「将来について考えよう。職業について調べよう。」等を行い、計画的に進路指導・キャリア教育を進めることができた。	B	キャリア教育の全体計画等を作成し、児童生徒の指導計画に生かすことができた。来年度も系統的な進路学習を職員間で共通確認しながら行う。またキャリア教育と校外学習をからめた職場見学を実施した。
		保健教育や道徳教育を通して、自他を大切にすることを育て、基本的な生活習慣を身につけさせる。	児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証(満足度80%)	小学部児童への清潔指導、中学部生徒への保健指導を養護教諭も入って実施した。愛校作業に取組み、学習・生活環境に対する意識や社会性を高めることができた。		養護教諭も入り、継続して保健指導する。道徳教育全体計画に基づき、様々な場面や教科の中で自他を大切にする教育を行う。
3	病弱児教育に関する専門性の充実を図り、信頼される学校づくりを行う。	具体的な支援に活かせる事例研究や指導法の工夫など、専門性の向上をめざした校内研究を進める。	児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証(満足度80%)	教職員全員が1人1事例ずつ提案する形で校内研究を行ったことで、全員が積極的に研究会に参加し、活発な意見交換を行うことができた。資質向上のために、様々な分野で講師を招聘した研修会を実施した。	B	在籍期間が短くなっているため、どこに焦点を絞って研究を行うかの見極めが難しいが、有意義な研究となるような研究方法・内容を検討していく。今後、本校に求められていく役割にも迫っていきけるようなテーマも探っていく。
		行き届いたチーム支援に努めるとともに、地域の関係機関と連携しながら、体験的活動や校外学習の充実を図る。	児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証(満足度80%)	宿泊学習を実施することができた。1泊2日の内容を生徒達が企画し、様々な体験的活動を行った。自立活動や道徳としての校外学習もそれぞれの学年等で取り組み、計8回行った。校内では経験できない貴重な経験をさせることができた。		在籍期間の短い生が多、計画の組み方が難しい面があるが校外学習はとても有意義な活動であるので、企画・実践していく。教科としての校外学習も、それぞれの教科で検討していく。また、いきいき教育やボランティアを活用し体験的な学習を増やす。

学校関係者評価	
実施日(平成29年2月21日)	
評価	意見・要望等
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育については、しっかりできていると思う。</li> <li>・教員間の不公平感の軽減が必要ではないか。</li> <li>・教員間の相互コミュニケーションがもう少し図れるとよい。</li> <li>・児童生徒・保護者アンケートからも高い評価を得ていると思う。</li> <li>・学校評価等で示された学校としての長所(成果)を教職員間で共有し、長所から見えてくる学校のあり方を全教員で検討する機会を設けられるとよい。</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育の内容が様々な指導形態で取り扱われており、有益であると思う。その成果と課題を外部発信する際に強調されるとよい。</li> <li>・個別の指導計画が先生方の不満になっているのでしょうか。その問題を考えて方がよい。</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちの評価、保護者の評価が良いことから、とても良い実践が行われていると感じる。</li> <li>・分校に来て変わっていく姿がとても良い。医教連絡会、病棟連絡会、医教情報交換等をおして、さらに連携を密にしていることが臨まれる。</li> </ul>

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。  
 (2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。